

「ハーフ」ってなに、「日本人」ってなに

佐藤祐菜・鈴木丈治・アンドリューアップトン

「もう 21 世紀だから、日本人にもいろんな人がいます。黒人の日本人もいれば、私のように日本人に見えない人もいます。逆に見た目が日本人でも外国で生まれ育った人もいます。見た目は目安にしかありません。」

こう語るの『ハーフが美人なんて妄想ですから！！』の著者、サンドラ・ヘフェリンさんだ。日本人の母とドイツ人の父を持ち、22 歳から 15 年以上日本に住んでいる。彼女は「ハーフ」をもっと理解してもらうため、講演会や執筆活動を精力的に行う。きっかけは 2006 年、ハーフが集う団体、HAPA JAPAN に入ったことだった。そこで知り合った多くの人が自分と同じように、いじめられた経験や、日本人として接してもらえないなどの悩みを持っていることに気が付いたのだ。

厚生労働省の 2006 年の統計によると日本の新生児の約 50 人に 1 人は日本人と外国人の間で生まれている。このいわゆる「ハーフ」の割合は近年増加傾向にある。にもかかわらず、日本社会においてハーフの中の多様性、日本人の中の多様性は無視されがちだ。

ペルーと日本のクォーターであり、日本で生まれ育ったニコラスさん(20)の家庭は多くのペルー的な要素を持つ。例えば、箸がなかったり、クリスマスは必ず家族で過ごしたりする。家庭ではスペイン語を使うため、彼は日本語とスペイン語のバイリンガルだ。だが彼の見た目から、英語を話すと勘違いする人もいます。

日本在住で韓国人を母に持つ M.I.さん(19)は、からかわれたことがあるため自身がハーフだということを親しい人にしか伝えない。信頼できる人なら「変に思ったり、距離を置いたりしないと思う」からだと語る。

一方で、二つの国にルーツを持つことに自信を持ち、ポジティブに捉える人もいます。イギリス人を父に持つ鈴木花さん(17)は言う。「ハーフであることは誇りであり、二つの言語を知っていることは自分の魅力です。」

ハーフは華やかでバイリンガルであるというイメージを持つ人もいるかもしれない。だがそれは偏ったハーフ像に過ぎない。実際は、容姿、言語能力、さらには自己のアイデンティティをどう捉えるかという点においてそれぞれが多様で、メディアが作り上げたステレオタイプだけが全てではない。

また、冒頭のヘフェリンさんの言葉に表れているように、人を分類すること自体、時代遅れであるのかもしれない。現代のグローバル社会においては、偏見やステレオタイプを取り除き、個を受け入れて尊重することが大事ではないか。

## 【編集後記】

佐藤祐菜

片親が外国人である人を指す言葉は、ハーフの他にダブルやミックスなどがありますが、この記事ではハーフに統一しています。私自身韓国人の母を持つため、ハーフが普段感じていることを伝えたいと思い、この記事を書きました。いわゆる「純ジャパ」の人だけでなく、ハーフ自身もハーフが多様であることを忘れがちだと思います。この記事を通して多くの人が日本の内なるグローバル化について考えてくれると嬉しいです。

アンドリュー・アプトン

日本人でもハーフでもない、つまり外から日本社会におけるハーフの事情を見ている私にとっては非常に興味深いテーマでありながら、(グループメンバーの佐藤さんとジョージさんを含め) 友達にはハーフが何人かいるというところでは非常に身近なテーマでもあります。大多数の人々が持つハーフのイメージには大抵、メディアが作り上げたハーフのイメージが色濃く反映されています。そのなかで、この記事が、ハーフの多様性だけではなく、そのハーフが日本の多様性の一部を担っているという事実の皆様が気づききっかけとなれば幸いです。

鈴木丈治

私自身ハーフであり、この記事の作成を通じて自分の経験を振り返ることができました。また、自分が他の人に伝えたいと思っていたことをも伝える良い機会でした。